

【論点2】 DPCの適用がふさわしい 病院について

1

2

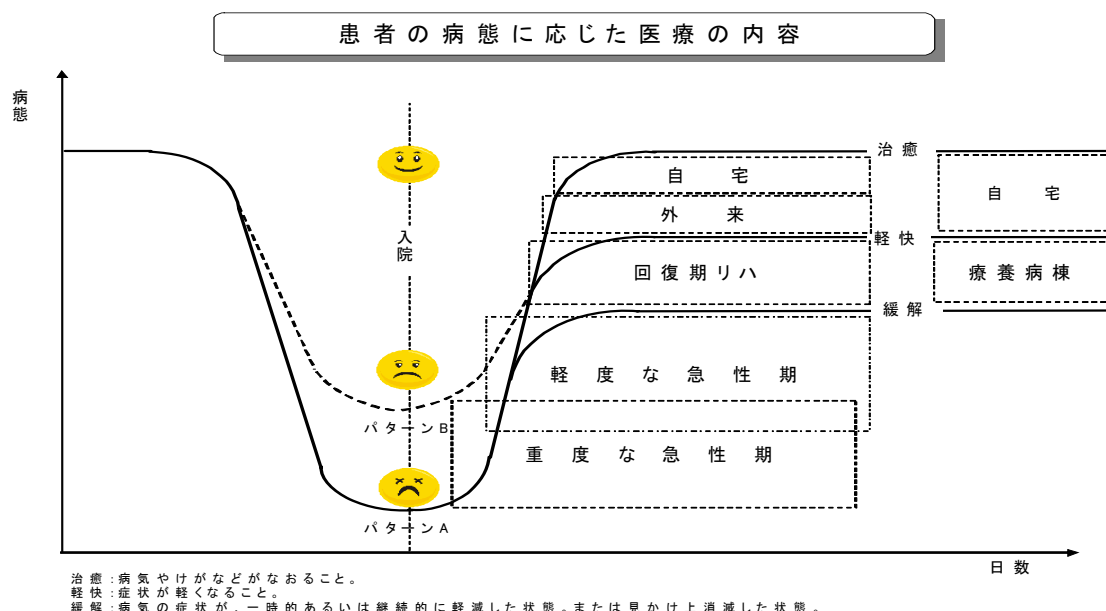
DPC対象病院となる病院の基準

- DPC対象病院となる希望のある病院であって、下記の基準を満たす病院とする
 - 看護配置基準 10対1以上であること
 - 診療録管理体制加算を算定している、又は同等の診療録管理体制を有すること
 - 標準レセ電算マスターに対応したデータの提出を含め「7月から12月までの退院患者に係る調査」に適切に参加できること
 - 2年間(合計で10ヶ月分)のデータを適切に提出していること
 - (データ/病床)比が8.75以上であること

※ 下線部は平成20年度より導入 ³

平成19年度の議論の結果1

- 平成19年度中医協の議論では、「急性期とは患者の病態が不安定な状態から、治療によりある程度安定した状態に至るまで」とし、DPCの対象の範囲としては、ある程度以上の重症な急性期に限定せず、全ての急性期を対象とするべきとされた。



4
出典 平成19年11月21日 中医協基本問題小委員会資料
平成19年10月22日 DPC評価分科会資料

平成19年度の議論の結果2

○ DPC対象病院において、急性期入院医療における入院から退院までの1入院に係る適切なデータを提出できること等、データの質を確保することが重要であるとされ、2年間の適切なデータの提出及び(データ/病床)比として10ヶ月で8.75以上であることとした。

(参考)

- ・ 対象期間＝7月～10月(123日)
- ・ 一般病床の病床利用率＝79.4%(平成17年医療施設調査)
- ・ 平均在院日数＝28日(10:1入院基本料における特定機能病院の基準在院日数)とした場合

データ/病床比＝(対象期間123日×病床利用率79.4%)／平均在院日数28日
≒ 3.5 (平成16年度DPC対象病院の基準)

※ 4ヶ月の(データ/病床)比の基準である3.5を10ヶ月に換算すると
 $3.5 \times 10 / 4 = 8.75$

5

平成21年度DPC対象病院の基準に係る検討の経緯

○ 平成19年度DPC準備病院については、平成21年度にDPCの対象とすべきか検討することとするが、その基準は、その時点におけるDPC対象病院に適用される基準と同じものとする。

出典 平成20年2月13日 中医協総会資料

【論点2】

急性期を担うDPC対象病院の中でも、ケアミックス型病院を含めた様々な特徴のある病院が参加しており、今後も同様な傾向となると考えられる。DPCの適用がふさわしい病院についてどのように考えるべきか。

出典 平成20年7月16日 中医協基本小委資料

DPC対象病院の傾向について1-(1)

○ 平成19年度DPC準備病院は、DPC算定病床数が少ない傾向がある。(DPC算定病床が200床未満が約半数)

DPC病院数

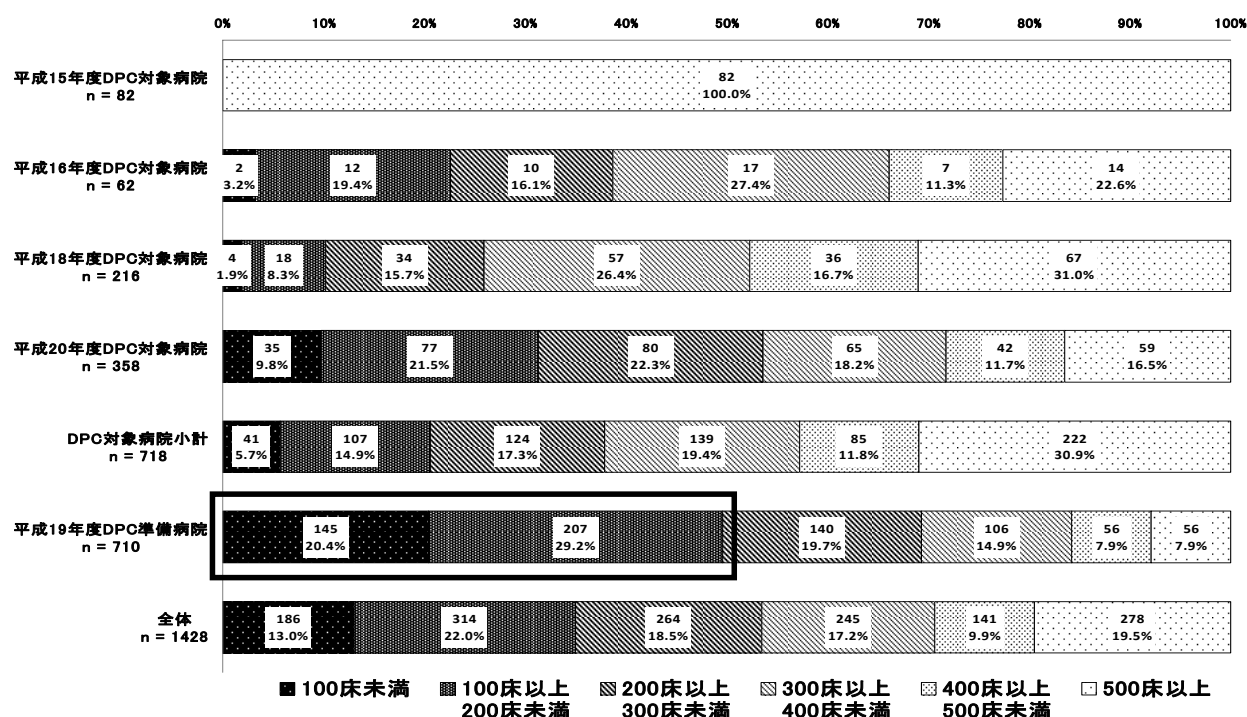
病院類型	100床未満	100床以上 200床未満	200床以上 300床未満	300床以上 400床未満	400床以上 500床未満	500床以上	計
平成15年度DPC対象病院	0	0	0	0	0	82	82
平成16年度DPC対象病院	2	12	10	17	7	14	62
平成18年度DPC対象病院	4	18	34	57	36	67	216
平成20年度DPC対象病院	35	77	80	65	42	59	358
DPC対象病院小計	41	107	124	139	85	222	718
平成19年度準備病院	145	207	140	106	56	56	710
準備病院小計	145	207	140	106	56	56	710
計	186	314	264	245	141	278	1,428

※DPC算定病床数(準備病院含む)は平成19年12月分DPC調査データより集計

出典 平成20年7月16日 中医協基本小委資料

DPC対象病院の傾向について1-(2)

DPC病院算定病床数規模別病院数(1-(1)の再掲)

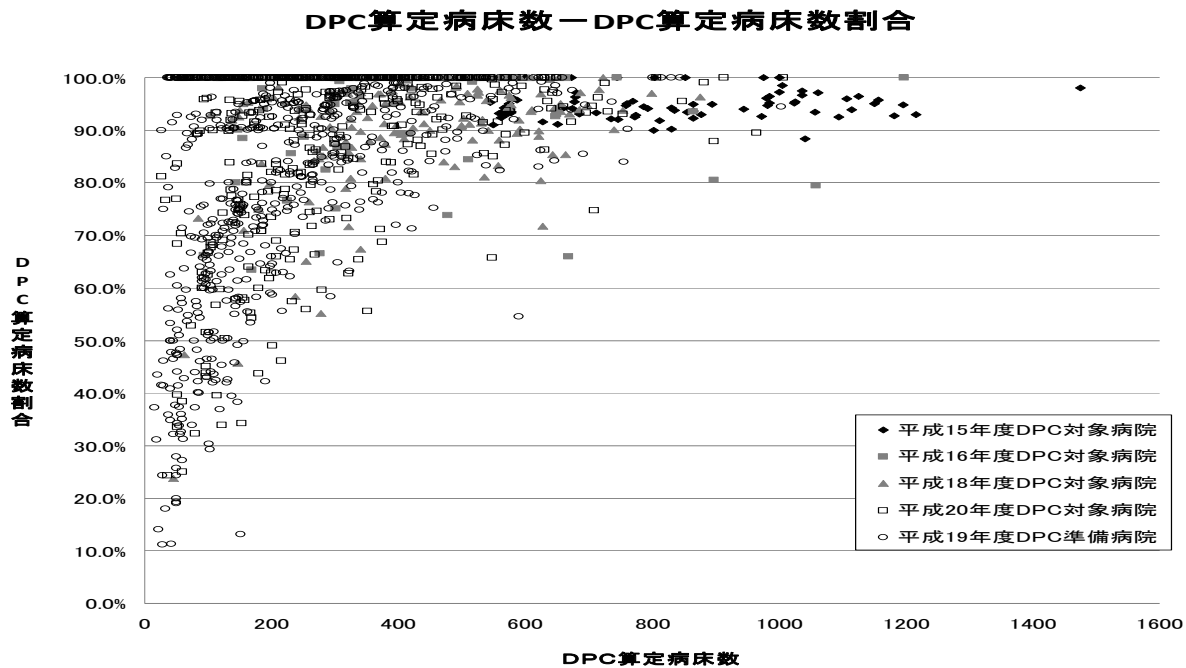


※DPC算定病床数(準備病院含む)は平成19年12月分DPC調査データより集計

出典 平成20年7月16日 中医協基本小委資料

DPC対象病院の傾向について2-1(1)

○ DPC算定病床数が少なければ、DPC算定病床割合も小さい傾向にある。



DPC算定病床数割合: DPCを算定するA100一般病棟入院基本料、A300救命救急入院料等の病床数を医療保険病床数で除したもの。

例: A100一般病棟入院基本料を算定する病床数180床、A101療養病棟入院基本料20床の場合、

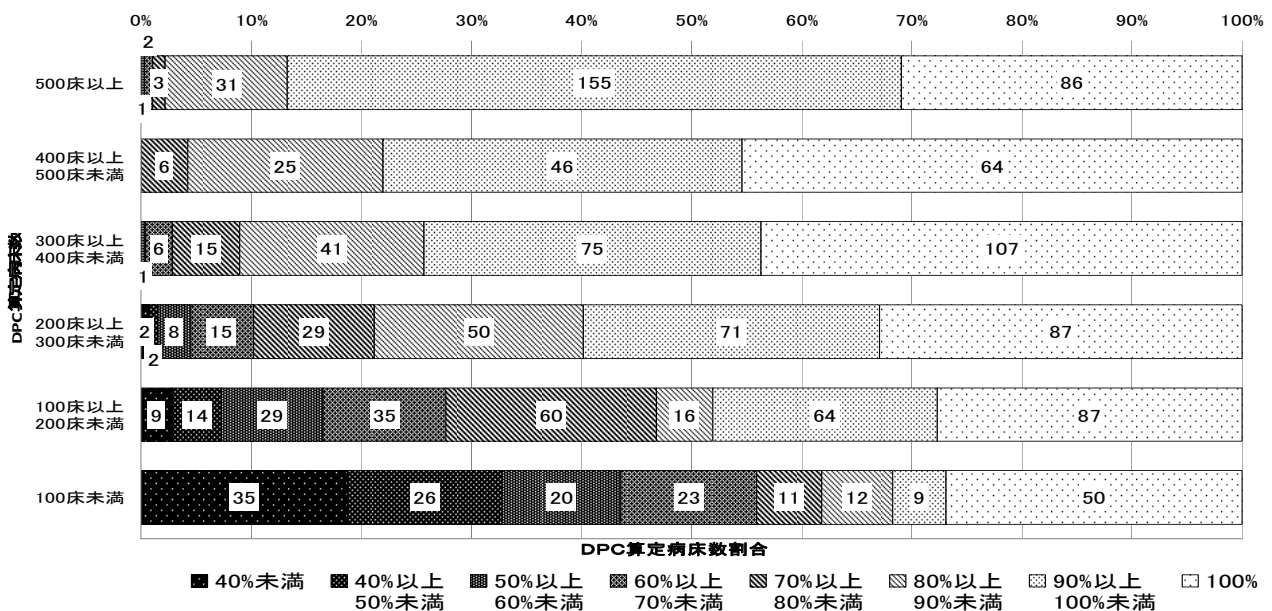
$$180 \div (180 + 20) \times 100 = 90\%$$

出典 平成20年7月16日 中医協基本小委資料

DPC対象病院の傾向について2-1(2)

○ DPC算定病床数が少なければ、DPC算定病床割合も小さい傾向にある。
(DPC算定病床数が100床未満の医療機関のうち、DPC算定病床割合が50%未満の医療機関が約30%である。)

DPC算定病床数 - DPC算定病床数割合 (2-1(1)の再掲)



平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査」より集計

いわゆる「ケアミックス型病院」とは

○ DPC算定病床以外の病床を併設している病院をいわゆる「ケアミックス型病院」とする。

	DPC対象病院 (718病院)	DPC準備病院 (706病院)
1 療養病棟(障害者・特殊疾患病棟を含む)のある病院	89 (12.4%)	201 (28.5%)
2 回復期リハビリテーション病棟のある病院	111 (15.5%)	138 (19.5%)
3 精神病棟のある病院	142 (19.8%)	54 (7.6%)
4 その他(結核・緩和ケア・亜急性期等)のDPC算定病床以外の病床のある病院	270 (37.6%)	316 (44.8%)
1～4のいずれかの病棟又は病床のある病院	452 (63%)	476 (67.4%)

(重複計上)

平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査」より集計

DPC算定病床数割合と医療機関数

DPC算定 病床数割合	DPC 対象病院	平成19年度 DPC準備病院	計
100%	266 (37.0%)	230 (32.6%)	496 (34.8%)
100%未満 90%以上	252 (35.1%)	150 (21.2%)	402 (28.2%)
90%未満 80%以上	100 (13.9%)	80 (11.3%)	180 (12.6%)
80%未満 70%以上	41 (5.7%)	80 (11.3%)	121 (8.5%)
70%未満 60%以上	29 (4.0%)	51 (7.2%)	80 (5.6%)
60%未満 50%以上	14 (1.9%)	50 (7.1%)	64 (4.5%)
50%未満 40%以上	6 (0.8%)	31 (4.4%)	37 (2.6%)
40%未満	10 (1.4%)	34 (4.8%)	44 (3.1%)
計	718 (100.0%)	706 (100.0%)	1,424 (100.0%)

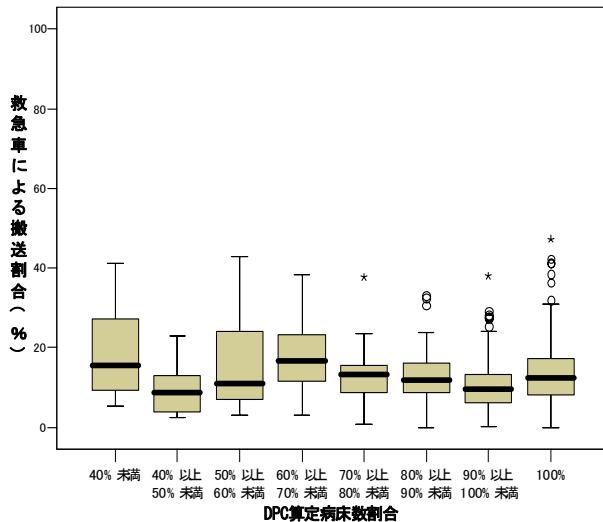
12

平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査」より集計

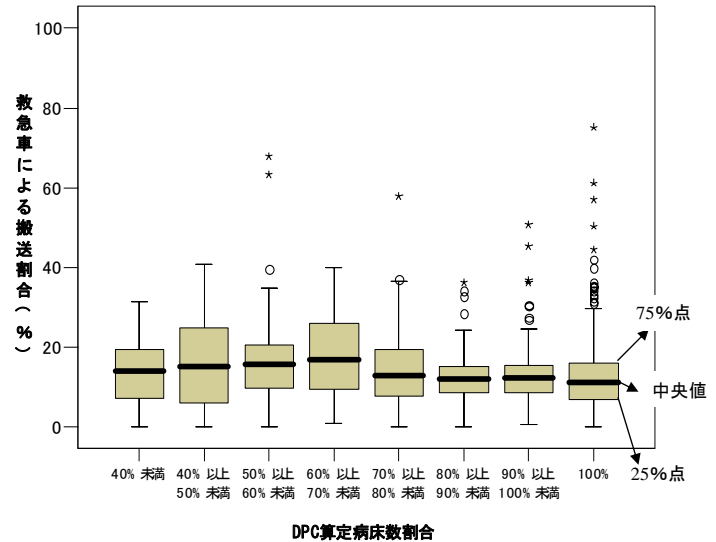
救急車搬送割合

○ 救急車による搬送により入院となった患者の割合は、DPC対象病院、DPC準備病院のいずれにおいても、DPC算定病床割合による明らかな傾向は認められない。

DPC対象病院



DPC準備病院



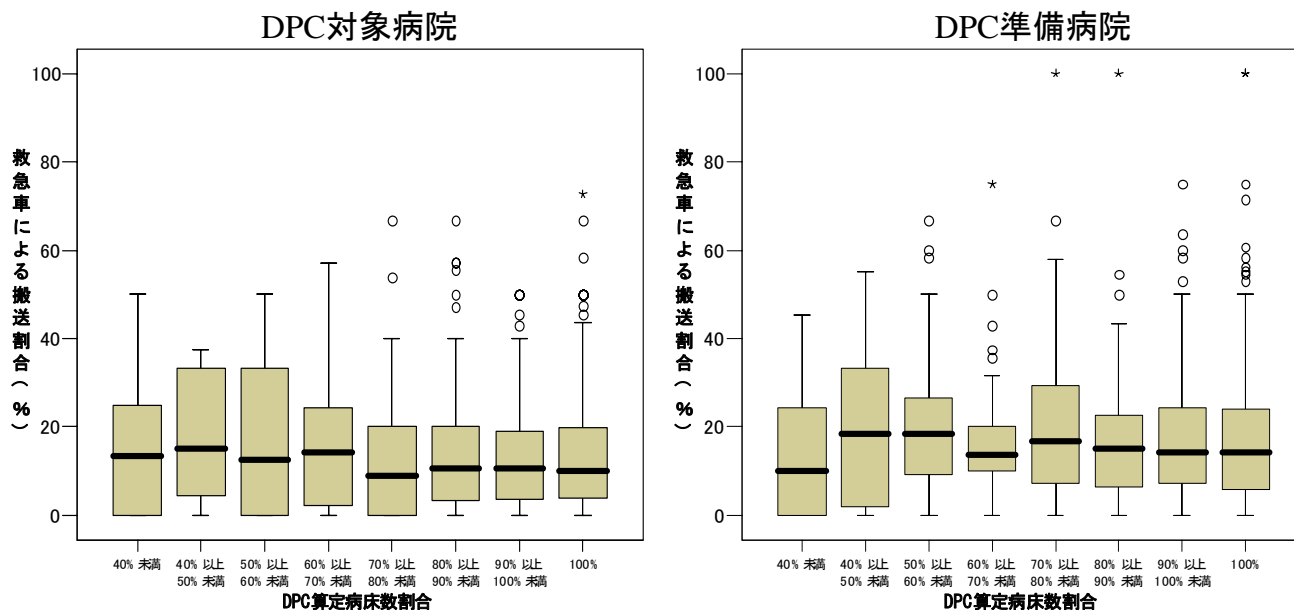
平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査」より集計

(参考)救急車搬送割合

【表2】救急車による搬送の率・患者数

病院類型	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC対象病院(割合)	7.9%	8.3%	7.5%	7.4%	7.4%
(1施設当たり患者数)	71.7	78.8	74.3	79.2	79.2
平成16年度DPC対象病院(割合)	11.8%	12.7%	12.2%	12.4%	12.7%
(1施設当たり患者数)	60.5	70.5	67.0	69.6	71.2
平成18年度DPC対象病院(割合)	・	・	13.3%	13.7%	14.1%
(1施設当たり患者数)	・	・	78.4	85.5	88.9
平成18年度DPC準備病院(割合)	・	・	・	13.3%	13.1%
(1施設当たり患者数)	・	・	・	57.8	57.5
平成19年度DPC準備病院(割合)	・	・	・	・	13.3%
(1施設当たり患者数)	・	・	・	・	41.6

(参考)救急車搬送割合(肺炎の例)



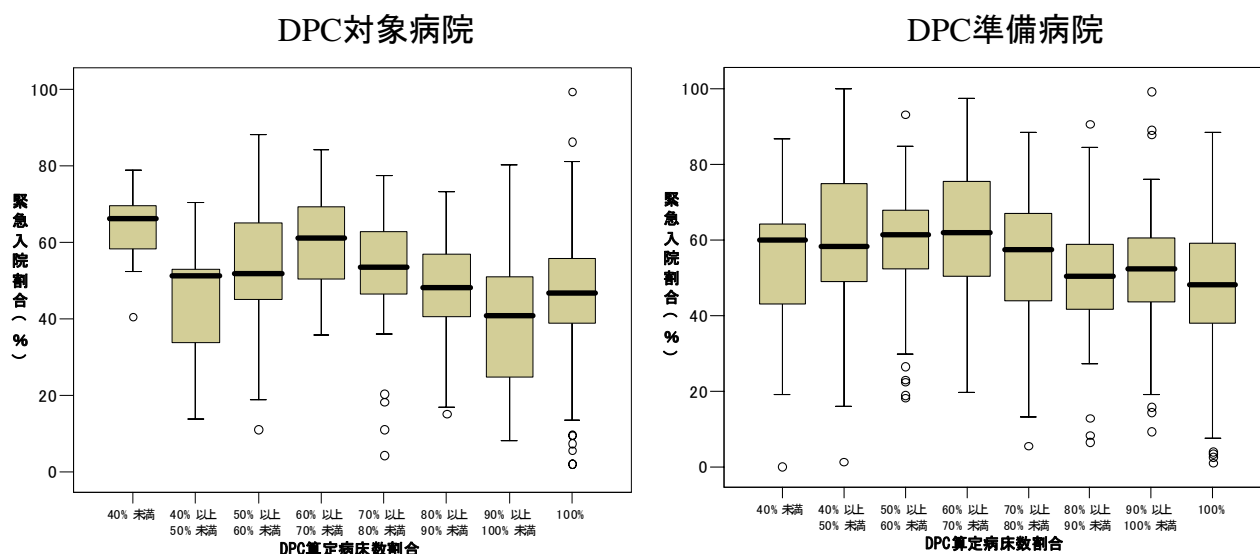
※ 診断群分類040080xx99x00x(肺炎、手術なし、手術・処置等2なし、副傷病なし)について集計

15

平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査」より集計

緊急入院割合

○ 緊急入院割合は、DPC対象病院、DPC準備病院のいずれにおいても、DPC算定病床割合による明らかな傾向は認められない。



※「緊急入院」とは「予定入院」以外の入院をいう。

16

平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査」より集計